

CONTENTS

洋学資料館新館オープン!!	2
行事報告 開館記念講演会	4
第63回文化講演会	5
NEWS FILE	6
新収蔵資料紹介	7
企画展 地域に生きて—蘭方を学んだ医師たちの暮らし	8
コラム	10
資料館展示品から	11
INFORMATION (催し物のご案内)	12





テープカットの瞬間

開館式

3月19日、いよいよ新館がオープンしました。GENPOホールで行われた開館式には、来賓や関係者約120名が出席。最初に宮地昭範市長が「津山の誇る洋学の歴史を、広く全国へ発信していくたい」と挨拶されました。

続いて来賓のオランダ王国駐日特命全権大使フリップ・ドゥ・ヘア様、箕作阮甫のご後裔・箕作秋次様、箕作家と縁の深い鳩山家の鳩山太郎様、教育委員長八木恵三子様、市議会議長森下寛明様よりご祝辞をいただきました。箕作様は、「箕作阮甫の生まれた津山の地に、この資料館ができることが意義深い」と感慨をこめて語ってくださいました。

また、式典にあわせてオランダのライデン市長をはじめ、多くの方からお祝いのメッセージが寄せられました。

友好提携館締結調印式

式に引き続き、ライデン市にあるシーボルトハウスとの友好提携館締結調印式が行われました。オランダから来日したシーボルトハウス館長のハンス・カイパース様と下山館長が覚書に署名。続いて立会人としてフリップ・ドゥ・ヘア大使と宮地市長が署名しました。最後に両館長が覚書を交換、しっかりと握手して今後の協力を約束しました。



フリップ・ドゥ・ヘアオランダ王国駐日特命全権大使よりお祝いの言葉をいただきました



大使、総領事らが常設展示を見学

開館記念企画展

その後大使、マルガリータ・ボット在大阪・神戸オランダ総領事、ハンス・カイパース館長、宮地市長、森下議長によりテープカットが行われました。

テープカット終了後は、一般の方の入場もはじまり、平日でしたが多くの方がご来館くださいました。中には「開館を待ちわびていました」と、嬉しいお言葉をかけて下さる方もいらっしゃいました。

入っていました。

同時に、開館記念企画展「工芸にみる江戸の阿蘭陀趣味—神戸市立博物館所蔵名品選—」が開幕しました。本展は神戸市立博物館の全面的なご協力を得て開催したもので、開館式には副館長の森本章夫様ならびに学芸員の勝盛典子様がご出席くださいました。司馬江漢画「相州鎌倉七里浜図」(重要文化財)をはじめ、薩摩切子など、江戸の人々の異国への憧れを物語る資料の数々に、来場した方々はじっくり見入っていました。



企画展も同時開幕



友好提携の覚書に署名、交換するハンス・カイパース館長と下山館長



第63回 文化講演会

「江戸の阿蘭陀趣味 洋学の興隆と西洋趣味の絵画と工芸」

講師 神戸市立博物館主幹・学芸員 岡 泰正 先生

開館記念企画展の関連行事として、4月11日には講演会も開催しました。春雨の降る中、約90人の聴講者が来場されました。

今回は神戸市立博物館の主幹・学芸員として、企画展で借用した資料を日頃から調査研究しておられる岡泰正先生を講師にお迎えし、「江戸の阿蘭陀趣味」というテーマでお話いただきました。

先生は、同博物館の設立準備時期から学芸員としてお勤めで、国内外の展示企画に数多く参画され、著書も多数あり、精力的にご活躍です。とりわけ南蛮美術やキリストン資料、オランダの影響を受けた日本美術にたいへんご造詣が深い方です。本籍が津山市加茂町のため、津山には親近感をお持ちで、新洋学資料館の開館企画展には、構想段階から親身に相談にのつてくださいました。

まずはGENPOホールで、司馬江漢の「相州鎌倉七里浜図」と薩摩切子にしぼって、詳しくご解説いただきました。江戸時代の画家が、西洋の銅版画を参考にして、遠近法など西洋画の技法を取り入れていった過程を紹介され、「七里浜図」は日本における西洋画の先駆けとして、葛飾北斎の浮世絵にも影響を与えたことを解き明かされました。

また、薩摩切子については、国産初の蒸気船・雲行丸の建造と大いに関係があつて、洋式軍艦の板ガラス製作技術を平和利用して生み出されたものであり、薩摩藩の財力と技術を傾注した工芸品として、将军家や大名家への進物に使われたことを明らかにされました。

その後、企画展示室に移動し、展示資料を前にして解説いただきました。きらびやかな工芸品を生み出した背景に、地道な洋学研究の蓄積があつたことを強調され、お話を締めくくられました。聴講された皆さんは、先生のご説明を興味深そうに聞き入つておられました。

開館記念講演会

講師 印刷博物館館長 樺山 紘一 先生

新館オープン一週間後の3月28日、開館を記念する講演会が開催されました。当日はあいにくの曇り空でしたが、GENPOホールが満員となる多くの方が来場されました。

講師にお迎えしたのは、印刷博物館館長で東京大学名誉教授の樺山紘一先生です。樺山先生は、西洋の中世史、西洋文化史をご専門にされ、国立西洋美術館の館長も勤めておられました。『旅の博物誌』をはじめ、たくさんの著書をお持ちです。

今回は「盆地の知性は世界へ」のテーマで、盆地に生まれ世界へと飛び出した人々についてお話しいただきました。まず先生が取り上げられたのは津山出身の津田真道です。真道は幕府初の留学生となりオランダ・ライデンへ赴いています。また、真道とともにオランダに渡った西周も、盆地である津和野に生まれたことに触れ、「盆地」という閉鎖的な場所で先見的な視野を持つ人々が出たことは興味深い。また、津山は洋学の伝統を積み重ねていたからこそ、近代化に大きく貢献することができたのではないか」と述べられました。

さらに、東北地方の盆地からもアジアに関心を示した学者が多く出てことを紹介され、最後に「盆地知性は甦るか」として、盆地の中から、新たな価値を生み出す時代が再び来るかもしれないと提起され、お話を締めくくられました。

聴講された方からは、帰り際に「素晴らしい講演で感動した」との声が多く寄せられました。郷土津山の魅力を再発見できる機会になつたのではないでしようか。

宇田川興斎が仁木永祐に贈った薬箪笥
(仁木家資料)

師弟の別れの記念品

仁木永祐の師・宇田川興斎が、藩の命令で津山に転居すると、永祐は師をたびたび訪問します。再び東京に移ることになった興斎は、愛用の薬箪笥を記念として永祐に与えました。箪笥の裏に「宇田川先生之留別（別れを惜むこと）」と書かれています。

山田純造にあてた原村元貞の手紙 (山田家資料)
診察の依頼先まで患者に同行

原村元貞が、山田純造の屋敷へ患者を連れていくことを知らせる手紙です。元貞が暮らす石生村から純造の住む海田村までは、直線距離でも 12 千歩離れています。その長い道のりを同行してでも良い治療を受けさせたいという、元貞の医師としての熱い思いが伝わってきます。



華岡流外科絵巻物 (久原家資料) 外科医療の様子を描く

津山藩医の久原家に伝来した絵巻物で、外科治療の様子を描いています。華岡塾で学んでいる久原玄順・宗哲・洪哉のうち、誰かが持ち帰ったと思われます。

■江戸時代の医師には、現代のような免許制度はありませんでした。しかし、若いうちに修業に出かけて、必要な医術を身に付けます。その修業先は、同じ地域の身近な医師から、江戸や上方（京・大阪）で活躍する有名な医師まで、さまざまです。蘭方の修業の場合、身近な医師の元で漢方の基礎的な医術を学んだ後、遠方に出てからより高度な医術を学べる医師に入門しました。

吉ヶ原（今の美咲町）の医師・江見敬輔は、京都に小石家が開いた究理堂で学び、師の教えを記した「誠諭之事」を持ち帰っていました。また、和歌山・大坂に吉益南涯とやり取りした手紙を残しています。いずれも、帰郷後も師の教えを守りながら医業に励んだ様子を伝えています。

企画展のご案内

■会期 2010年4月25日(日)
～10月3日(日)

■会場 洋学資料館 企画展示室
■時間 9:00～17:00
(入館は16時30分まで)
■観覧料 一般 300円 (240円)
高校・大学生 200円 (160円)
小学・中学生 100円 (80円)

※常設展示と共に () 内は30名以上の団体

有名塾での修業

■江戸時代の医師には、現代のような免許制度はありませんでした。しかし、若いうちに修業に出かけて、必要な医術を身に付けます。その修業先は、同じ地域の身近な医師から、江戸や上方（京・大阪）で活躍する有名な医師まで、さまざまです。蘭方の修業の場合、身近な医師の元で漢方の基礎的な医術を学んだ後、遠方に出てからより高度な医術を学べる医師に入門しました。

吉ヶ原（今の美咲町）の医師・江見敬輔は、京都に小石家が開いた究理堂で学び、師の教えを記した「誠諭之事」を持ち帰っていました。また、和歌山・大坂に吉益南涯とやり取りした手紙を残しています。いずれも、帰郷後も師の教えを守りながら医業に励んだ様子を伝えています。

地域での医療活動

■医術の修業をひと通り終えた若者は、多くの場合、自分の郷里に帰つて開業します。生家の家業として医師を継ぐ者、古い医家に養子に入る者、新たに一から開業する者など、置かれた境遇はそれぞれに異なりました。山田家や仁木家の医療器具、横山家で産科学習のため使われた人形など、医学書以外では、儒学や国史などの教養書や絵入り本まであり、医師の幅広い興味・関心を窺うことができます。

地域に生きて

— 蘭方を学んだ医師たちのくらし —

美作地域には、江戸や上方の有名な医学塾で蘭方（西洋流の医術）を学び、帰郷して地域医療の発展に尽した医師が数多くいます。この企画展では、残された資料とともに、そうした医師たちの暮らしぶりを紹介します。

医師たちの地域間交流

■江戸時代の医師たちも、近くで活動する者どうしで、日頃からお互いに親しく交流していました。そうした交流を活かして、患者の治療においても協力しあっています。また、ふだんは交流がない者どうしでも、より専門的な治療を施せる医師の元へ、自ら患者を送り届けるということもあったようです。

各医家に伝えられた手紙からは、こうした医師たちの交流の様子が生き生きと伝わってきます。例えば、石生村（今の勝央町）の医師・原村元貞から海田村（今の美作市）の山田純造に送られた手紙では、脚を痛めた患者の治療に苦慮した元貞が、より良い診察・投薬を受けさせるため、純造の屋敷へ患者を連れていくことが知られています。

■蘭方を学んだ医師たちは、医術だけでなく幅広い教養を身に付けていました。基礎的な教養として漢学・儒学や和歌・俳諧を身に付け、漢詩や和歌などを詠むことを趣味としていました。また、生計を立てるため、医療活動の合間に近所の子供たちを集めて私塾や寺子屋を開き、読み書きなどを教える者もいました。粉保の医師・仁木永祐は粉山饅を開いており、書見台や拍子木、出席帳などが今も残っています。美甘の医師・横山廉造は調合所と住居を兼ねた「杏香館」に、多くの蔵書を残しました。医学書は伝統的な漢方から蘭方（西洋医学）まで偏りなくそろっています。医学書以外では、儒学や国史などの教養書や絵入り本まであり、医師の幅広い興味・関心を窺うことができます。



横山家伝來の蘭引 (真庭市所蔵)

吉岡家伝來の産科人形 (吉岡家所蔵)

福渡村の医師、吉岡寛斎が弟子に産科を教えるために使っていたものです。



これは、蘭学草創期の名著と言われる『紅毛雑話』です。「紅毛」とはオランダのこと、「西洋の人はどうなものを食べているの?」といった、当時の人々の西洋への疑問や好奇心に応える話題が集められています。森島中良という人が1787年(天明7)に刊行しました。

森島中良は『解体新書』翻訳メンバーの一人で幕府の医官だった桂川甫周の弟子になつて戯作をしたり、狂歌師でも

あつたといいますから、好奇心旺盛で多彩な才能を持つ人だったのでしょう。兄と共に、将軍に挨拶するため江戸に来た長崎・出島のオランダ商館長らの宿を訪ね、見聞きしたことなどをまとめたのが本書です。

さて、この中に、ページいっぱいに拡大された蚊の図があります。これは顕微鏡の説明のために載せられたもので、図はオランダ人の顕微鏡学者スワンメルダムの『自然の聖書』から写されたもの。描いたのは日本で最初に腐蝕銅版画を成功させたこと

で有名な画家・司馬江漢です。

説明には「種々のものをうつして見るにその微細なること凡慮の外なり」と、顕微鏡で見るミクロの世界への驚きが率直に綴られています。きっと当時この図を見た人々も、小さな蚊の大きな絵にびっくりしたに違いありません。

この図をもとに、資料館のミュージアムグッズを作成しました。こちらも同じように皆さんを驚かせているようです。

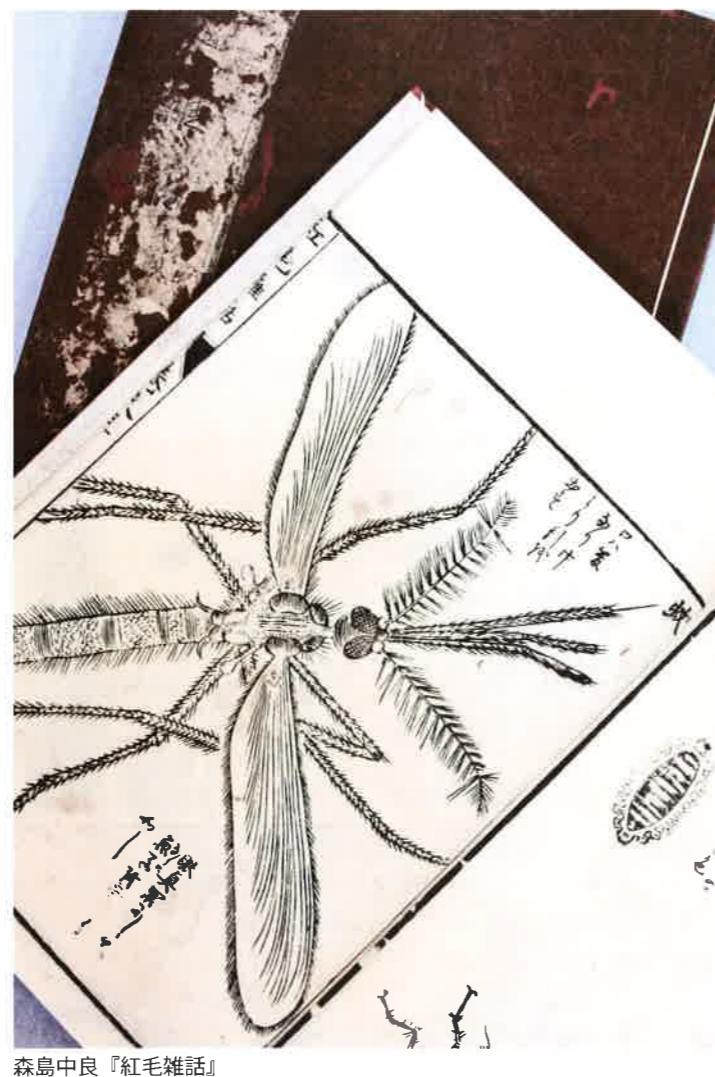
文・学芸員

田中美穂

資料館展示品から

蘭学草創期に
西洋事情を伝える

『紅毛雑話』



森島中良『紅毛雑話』

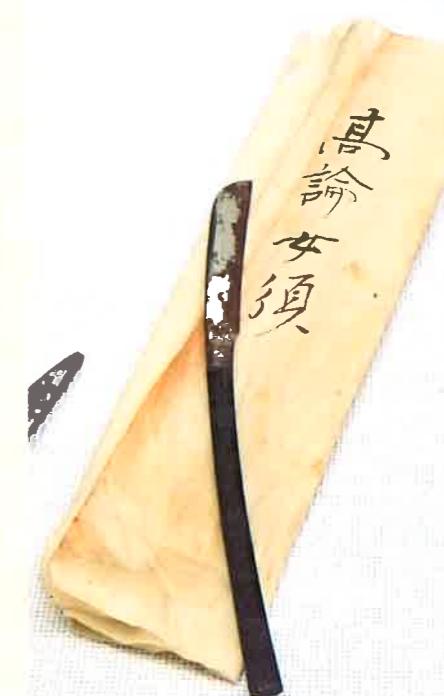
洋学資料館オリジナルの
紅毛雑話手拭い

伝えられた華岡流外科器具

刃物の包み紙に「高論女須」と書かれていますが、これは一体何と読むのでしょうか。

麻酔薬を使って外科手術を行ったことで一世を風靡した紀州(今の和歌山県)の華岡青洲。その青洲が使った小刀に「ころんめす」と書かれたものがあり、高論は「コロン」女須は「メス」、krimmesserの当て字だったことが分かります。

青洲が創意工夫したもので、鉄製、患部の深くまで挿入し、



腫瘍を周囲の組織から切り離す際に用いました。

これは華岡門人美作市海田の山田純造が実際に使ったものですが、「高論女須」とあるところに純造の深い知識が読み取れます。

このメスは、資料館で現在開催中の企画展「地域に生きて―蘭方を学んだ医師たちのくらし」で展示されています。

文・館長 下山純正

宇田川榕菴肖像画
(武田科学振興財団杏雨書屋所蔵)

認定第1号

そして、この度、化学遺産第1号として、武田科学振興財団杏雨書屋が所蔵する宇田川榕菴の関係資料が認定されました。

宇田川榕菴は「舍密開宗」を著し、それまでこの国に知られていなかつた化学という学問をはじめて体系的に紹介、酸素や窒素などたくさんの化学用語を作りました。

榕菴がその「舍密開宗」を著すにあたって参考にした多くの資料のことです。同学会は、化学と科学技術に関する貴重な歴史資料の保存と活用を推進するため、2005年から化学遺産委員会を設置しました。化学遺産の認定を通して、文化遺産、産業遺産として次の世代に伝え、化学に関する学術と教育の向上や、化学工業の発展が目指されています。

この認定をきっかけにして、榕菴の業績が広く一般の方にも伝えられて行くのではないであります。

杏雨書屋所蔵 宇田川榕菴化学関係資料が化学遺産に認定

INFORMATION

催し物

4月	■ 11 第63回文化講演会「江戸の阿蘭陀趣味」 講師：神戸市立博物館主幹・学芸員 岡泰正先生	工芸に見る江戸 の阿蘭陀趣味 ～4/18
	■ 11 友の会総会	
	■ 17 ヒンローペンイベント (休館日：5・12・19・26・30日)	
5月	■ 30 友の会研修バス旅行 (休館日：6・7・10・17・24・31日)	4/25～
	■ 燻蒸作業にともなう休館(28～7/2) (休館日：7・14・21・28～30日)	
6月	■ 燻蒸作業にともなう休館(28～7/2) (休館日：7・14・21・28～30日)	6月
7月	■ 31 親子ヒンダローペン教室 (休館日：1・2・5・12・20・21・26日)	7月
8月	■ 17 江戸時代の化学実験を再現 (休館日：2・9・16・23・30日)	8月
9月	(休館日：6・13・21・22・24・27日)	9月
10月	(休館日：4・12・13・18・25日)	10月
11月	■ 6 国民文化祭おかやま 洋学シンポジウム ■ 友の会史跡見学会(日程調整中) (休館日：1・4・8・15・22・24・29日)	11月
12月	■ 11・12 洋学史学会 津山大会 (休館日：6・13・20・24・27～31日)	12月
1月	■ 第64回文化講演会 講師 獨協大学教授 加藤信重先生 (休館日：1～4・11・12・17・24・31日)	1月
2月	(休館日：7・12・14・21・28日)	2月
3月	(休館日：7・14・22・23・28日)	3月

■ 催し物 ■ 講演会 ■ 友の会

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・12月28日～1月4日
- 入館料／

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
300円 (240円)	200円 (160円)	100円 (80円)

※()内は30名以上の団体



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>

企画展

臨時休館のお知らせ

館内の燻蒸作業のため、

6月28日(月)～7月2日(金)

は臨時休館します。ご了承ください。

第25回 国民文化祭 おかやま 2010
洋学シンポジウム

江戸時代の国際文化交流

～洋学・異国人・異国船～
伝えたい きらめく津山洋学の足跡

日程：11月6日(土)
会場：津山鶴山ホテル

◆コーディネーター

江戸東京博物館長 竹内 誠先生

◆パネリスト

東京学芸大学教授 大石 学先生
東京大学史料編纂所教授 山本博文先生
明海大学教授 岩下哲典先生
茨城大学准教授 磯田道史先生

文化講演会

第64回 文化講演会

日時：1月下旬予定 演題：調整中
講師 獨協大学教授 加藤信重先生

津山洋学資料館友の会 会員募集中

年会費1,500円で洋学資料館の入館料免除や
発行物の送付、研修旅行や史跡見学会のご案内などの特典があります。



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から市内循環ごんごバス東回りで9分、天神橋下車徒歩3分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分